

アート・アーカイヴ資料展 XXVIII

幽暗 Shadow World

朦朧と立ち上がる土方栄の振付世界

2026

1/19 (Mon.)

3/14 (Sat.)

慶應義塾大学
アート・センター
(三田キャンパス南別館 1階アート・スペース)

11:00–18:00

休館日 | 土日祝日

1月 31 日(土)、3月 14 日(土)は開館

2月 2 日(月)、3月 9 日(月)は休館

入場無料



写真 | 《小林巖峰舞踏公演》(にがい・光)、撮影者不明、1977年
慶應義塾大学アート・センター／NPO 法人舞踏創造資源

In the Shadows: The Obscure World of Tatsumi Hijikata's Choreography

Introduction to
Art Archive XXVIII

主催 | 慶應義塾大学アート・センター

協力 | 土方栄アスペクト館、NPO 法人舞踏創造資源

助成 | 公益財団法人 花王芸術・科学財団

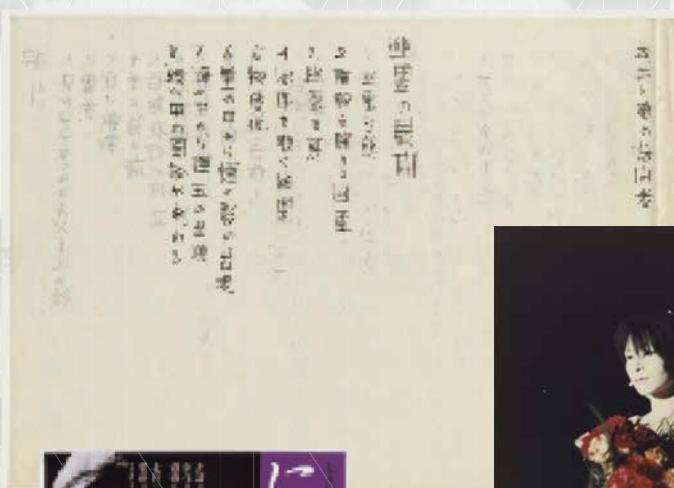


公益財団法人 花王芸術・科学財団

本事業は 2025 年度科学研究費基盤研究 (C) 「『動きのアーカイブ』における実証的研究——アーカイブの創造的利用における国際連携」(25K03758) の助成を受けています。

In the Shadows: The Obscure World of Tatsumi Hijikata's Choreography

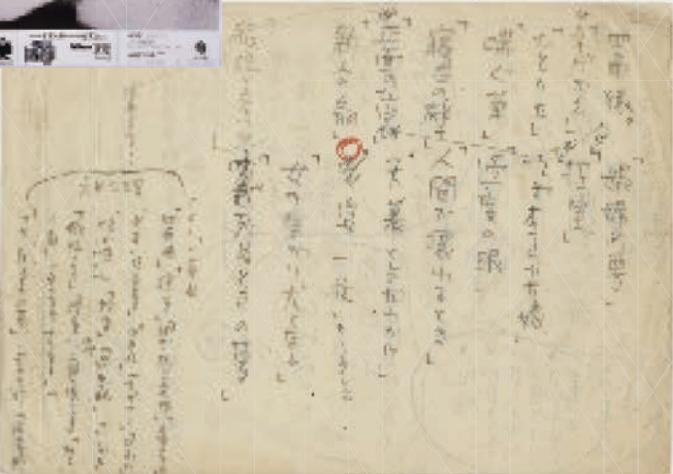
Introduction to Art Archive XXVIII



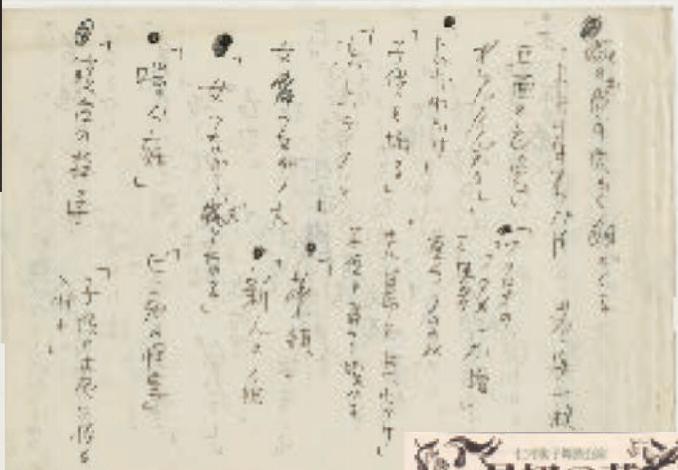
《小林嵯峨舞踏公演》(にがい光)、撮影者不明、1977年
慶應義塾大学アート・センター／NPO 法人舞踏創造資源



《小林嵯峨舞踏公演》(にがい光) ポスター、1977年
慶應義塾大学アート・センター／NPO 法人舞踏創造資源



「舞踏譜スクリプトシート」、土方栄、年代不明
慶應義塾大学アート・センター／NPO 法人舞踏創造資源



《仁村桃子舞踏公演・アスペクト館松代分室設置記念》
(最初の花) ラシ、1978年
慶應義塾大学アート・センター／NPO 法人舞踏創造資源



お問い合わせ

慶應義塾大学アート・センター
108-8345 東京都港区三田2-15-45
Tel. 03-5427-1621 Fax. 03-5427-1620
<http://www.art-c.keio.ac.jp>
ac-tenji@keio.adst.ac.jp



展覧会ウェブサイト



関連イベント

予定は予告なく変更されることがあります。詳細は展覧会ウェブサイトをご確認ください。

没後40年 土方栄を語ること XV

日時 | 2026年1月21日(水) 18:00 開会 (17:00 開場)

場所 | 慶應義塾大学三田キャンパス 東館6F G-Lab (オンライン配信あり)

特別上映会「70年代後半における土方栄の振付II」

これまであまり注目されてこなかった1977年、1978年の下記2作品をVICコレクション*から上映します。

(上映会のオンライン配信はありません。)

日時 | 2026年3月12日(木) 18:00 開始

場所 | 慶應義塾大学三田キャンパス 東館6F G-Lab

18:00-20:00 《仁村桃子舞踏公演・アスペクト館松代分室設置記念》(最初の花) 上映 (1978年、1時間45分)

出演: 仁村桃子、山本萌

日時 | 2026年3月14日(土) 16:30 開始

場所 | 慶應義塾大学三田キャンパス 東館6F G-Lab

16:30-18:10 《小林嵯峨舞踏公演》(にがい光) 上映 (1977年、1時間40分) 出演: 小林嵯峨、和栗由紀夫ほか

18:15-19:00 「Butoh Scores 研究発表」ローザ・ヴァン・ヘンスバーゲン (アート・センター所属員、イェール大学准教授)

*VIC (Video Information Center | 1972-現在) は、70年代から80年代にかけビデオを用いて、多種多様なイベントの記録および実験的なテレビ放送の試み「Paravision Ten」(1978年)等を行った運動体です。(助成:令和7年度 文化庁メディア芸術アカペラ推進支援事業「1970年代以降のパフォーマンスおよび展覧会のビデオ記録のデジタル化・レコード化Ⅲ」)

土方栄の舞踏は30年にも満たないものの、それでも1959年の〈禁色〉以来の土方栄の舞踏を一望することはむずかしい。とはいっても、土方栄が1970年を境に自らの舞踏を決定的に変えようとしたことは確かです。1960年代に「舞踏の運動」は遂行されましたが、土方栄はとともに「運動」を担った舞踏家と決別して、新たな舞踏の創造に向かったのです。

土方栄自身が1973年に舞踏の舞台から降りたことは驚きでしたが、ここから「Butoh Score」として舞踏メソッドの本格的な構築に向かいました。

本展では「幽霊」を形象する特定の動きに着目するとともに、海外の新たな視点と新たな映像の手法を得て、舞踏譜をベースにした土方栄の舞踏メソッドを提示し問い合わせます。

そして現在から50年前にあたる1976年からの土方栄の創作活動の流れを俯瞰しつつ、中でも1977年《小林嵯峨舞踏公演》(にがい光)と1978年《仁村桃子舞踏公演・アスペクト館松代分室設置記念》(最初の花)の2作品を紹介します。